令和元年６月 11 日

令和元年度病害虫発生予察特殊報（第１号）

和歌山県農作物病害虫防除所

１．病害虫名 ：ノイバラハオレタマバエ　　*Dasineura* sp.

２．作 物 名 ： バラ

３．発生地域 ： 有田地域

４．発生確認の経過および県内外での発生状況

平成 31 年２月 27 日付けでバラハオレタマバエ *Contarinia* sp. の特殊報を発表したところであるが（平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第４号）、本年５月に有田地域の施設栽培バラ（土耕）において、その被害と同様に新葉が折り畳まれて奇形となり、内側が食害されている葉が見つかった。被害葉を広げると、中肋に沿ってハエ目の幼虫が多数生息していたが、バラハオレタマバエと体色が異なったため、佐賀大学農学部の徳田誠准教授に同定を依頼した。その結果、ハエ目タマバエ科のノイバラハオレタマバエであることが判明した。なお、県内では当該施設以外で本種の発生は認められていない。

本種は本州～九州に分布し、野生のバラ属植物であるノイバラに葉折れ状の虫えい（ノイバラハオレフシ）を形成する。施設栽培バラでは、平成 17 年６月に奈良県で発生が確認されている。

５．形態および生態

バラハオレタマバエの終齢幼虫は乳白色～黄色であるのに対し、本種の終齢幼虫は橙赤色を呈する（図１）。また、バラハオレタマバエの老熟幼虫は、手のひらなどにのせてしばらく観察していると体をくの字型に折り曲げてジャンプする行動を示すが、この行動は本種では見られない。

生活史は不明な点が多い。５月から６月にかけて虫えい内に幼虫が見られる。幼虫は終齢まで虫えい内に生息し、老熟後は地上に落下し土中で蛹化する。

６．被害の特徴

葉の被害症状はバラハオレタマバエと酷似している。新葉が中肋に沿って、葉表が内側になるように２つに折り畳まれる（図２）。被害が出始めの葉では、折り畳まれた部分を開くと幼虫が数頭～十数頭みられる。

７．防除対策

１）現在、バラにおいて本種に対する登録薬剤はない。

２）被害葉を発見したら速やかに除去し、適切に処理する。

３）ノイバラが発生源となる可能性が高いので、バラ栽培施設の周辺に自生するノイバラを除去する。

図１．ノイバラハオレタマバエの幼虫

図２．ノイバラハオレタマバエによる葉の被害

参考文献

徳田　誠・湯川淳一(2004) 九病虫研会報 50: 77-81.

徳田　誠(2005) 今月の農業 49(12): 37-39.

徳田　誠・湯川淳一・井村岳男・阿部芳久・Keith M. Harris(2009)応動昆 53:185-188.

湯川淳一・桝田　長(1996) 日本原色虫えい図鑑. 全国農村教育協会, 東京. 826 pp.

和歌山県農作物病害虫防除所
担当：井口
電話：0736(64)2300